

パルボウイルス B19 について

リンゴ病（伝染性紅斑）

ヒトパルボウイルス B19 は小児でよく見られるリンゴ病（伝染性紅斑）という病気の原因ウイルスです。小児期に感染していない場合は成人でもパルボウイルス B19 に感染します。

リンゴ病（伝染性紅斑）は 4～5 年周期で流行します。季節では春から夏にかけて流行する傾向があります。2024 年は秋ごろより流行が見られており、2025 年は全国的な流行が危惧されています。

パルボウイルス B19 感染の症状

小児の場合、14～20 日の潜伏期間の後、両頬に紅い発疹、体や手・足に網目状の発疹が見られ、1 週間程度で消失します。発疹が淡く、他の疾患との区別が難しいこともあります。発疹が出現する 7～10 日前に微熱や風邪のような症状がみられることがあり、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。大人がかかった場合には、何も症状が出ない場合もありますが、伝染性紅斑の典型的な発疹や関節の腫れ・痛みが出る場合があります。関節としては、手関節や腕・膝の関節が多いです。感染者の約半数は症状が出ない（不顕性）のため、症状がなくてもウイルス感染は否定できません。

検査概要

大人のパルボウイルス B19 感染は症状だけでは診断が難しいことがあります。そのためリンゴ病にかかった患者さんとの接触の有無や職業などの問診に加え、血中の IgG（保険未収載）、IgM の測定により感染を判定します。

一般に、ウイルス接触後数日から 1 週でウイルス血症となり、約 10 日目より IgM 抗体が検出され、数日遅れて IgG が上昇します。

検査項目名	ヒトパルボウイルス B19 抗体	
	IgM	IgG
検査方法	EIA 法	
検体量	血清 0.2mL	
所要日数	2～4 日	
検査実施料	200 点 (D012 44) ※1	未収載

※1 紅斑が出現している 15 歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM 型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。